



衣川 重夫

『たたらふるさと』を訪ねて

12月6日午前9時、姫路駅に集合しバスに乗り込みました。千種町を目指して一路北北東へ、途中姫路から約50km、一宮町にある播磨一宮、伊和神社で少し休憩。もう一台のバスと合流、2台のバスは共に宍粟市の所有車でガイドは市の観光課の女性でした。史跡の案内は保存会の会長上山勝氏、金屋子神降臨の碑を車中から見て、引原ダムを経て冬にはスキー場になる千種高原で昼食。その後、江戸時代に栄えた『天児屋鉄山』、今は『たたら学習館』が脇に建ち、たたらが勉強出来るようになっています。山崎まで下って鉄山師として活躍した平瀬家の菩提寺大雲寺を見学、千種川を渡る橋の上から往時の鉄積み出し港の史跡を見ました。

駆け足の見学でもう少し詳しく知りたいところもありましたが、後日の楽しみに残しました。初めて見た金屋子神降臨の碑、この神様は『たたら製鉄』を行った鉄山師には特別の神様だったようで、千種の鉄山師もたたらをするに当たって金屋子神社へお参りに行ったそうです。この神社は島根県能義郡広瀬町西比田にあります。金屋子神社由緒は金屋子神が宍粟郡の岩鍋から飛んで来たと以下の様に記されています。

金屋子神 (かなやごしん=かなやごかみ とも読む)

太古ある早天の日、土民が集まって雨乞いをしていたところ、7月7日の申のさかりの刻に、播磨国宍相郡岩鍋という所へ高天原から一神が天降りました。そして神託して申されるには、われはこれ金神である。今よりあらゆる金器をつくり、悪魔降伏、民安全、五穀豊穰のことを教えようと、かくして磐をもって鍋をつくりたもうた。故にこの地を岩鍋という。しかし、ここには住たもうべき山がなかった。そこで、われは西方を司る神なれば西の方へ赴かんといつて、白鷺に乗って飛び立ち、出雲の国能義郡黒田が奥、桂木の森に着きたまい、桂の木に羽を休めていたまうところ、たまたま狩りに出ている安部氏の祖正重なるものが、これを発見し、やがて神託により長田兵部朝日長者なるものが宮社を建立し、神主に正重をなし、神みずから村下となりたまい、朝日長者は炭と粉鉄とを集めて吹きたまえば、神通力のいたすところ鉄の涌くこと限りなし。(金屋子神社由緒略記による)



鉄山師(てつざんし) :
たたら製鉄の経営者、砂鉄・木炭の調達、人材の手配、製造から販売までを手がけた。

参考資料 金屋子神縁起と炎の伝承 玉鋼(ケラ)の杜 安部正哉 昭和61年4月

「鉄のふしぎ博物館」開館
来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！